

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

令和5年度病害虫発生予報第3号(6月)^記

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085
内線 471
ファックス 0561-63-7820

令和5年度病害虫発生予報第3号(6月)

令和5年6月2日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	紋枯病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	縞葉枯病	やや多い	県全域	前年の発生量は平年並 5月下旬のヒメトビウンカの 発生量が多い	± +
	ニカメイガ	平年並	県全域	予察灯における誘殺数は平年並	±
	ヒメトビウンカ	多い	県全域	5月下旬の発生量が多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±

・防除対策

[イネ・ヒメトビウンカ]

ヒメトビウンカはイネ縞葉枯ウイルスを媒介するため、本病に抵抗性を持たないイネ品種では、発生状況に注意しましょう。

・留意事項

ムギ類赤かび病について、5月下旬に行った巡回調査（県内 18 ほ場調査）の結果、発病穂率が 5.11%（平年 1.46%、前年 7.48%）と、過去 10 年間と比較して 2 番目に高い状況でした。本病原菌は腐生性が高く、ムギわらなどの作物残渣上に広く生存します。そのため、収穫後はほ場内の作物残渣の持ち出しや、耕起をしてすき込むなどして翌年の伝染源の除去に努めましょう。

イネいもち病は気温が 20～25℃で曇雨天が続くと発生量が多くなります。名古屋地方気象台 6 月 1 日発表の 1 か月予報によると、向こう 1 か月の気候は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。ほ場をよく観察し、発生を確認したら速やかに防除しましょう。また、補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になるので、補植終了後は直ちに除去しましょう。

イネ紋枯病は、梅雨期の温度が高いと発生量が増加します。特に、梅雨初期頃に高温で推移すると、発生が早まりその後の発生量も多くなるため、前年の発生量が多かったほ場では、ほ場内での発生状況に注意しましょう。

トビイロウンカ及びセジロウンカについて、今年はまだ本県における予察灯への誘殺及び本田調査での発生も確認されていませんが、今後発表するトビイロウンカ及びセジロウンカに関する情報に留意してください。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の発生が確認された水田では、苗の食害対策として、移植後 3 週間程度（食害を受けにくい 5 葉程度）までは浅水管理を行いましょう。また、貝の発生が多い場合は薬剤防除を行いましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
ウンシュウミカン	そうか病	多い	県全域	5月下旬の発生量は多い 6月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の胞子形成量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	アブラムシ類	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	イヌマキにおける 5 月下旬の発生量はやや多い 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	＋ ±
ナシ	黒星病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	少ない	県全域	5月下旬の発生量は少ない	－

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は少ない 6月の降水量はほぼ平年並 5月に強風を伴う豪雨があった	－ ± ＋
	黒星病	平年並	県全域	4月の発病枝率は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	灰星病	平年並	県全域	4月の発病花率は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	平年並	県全域	5月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	やや多い (やや早い)	県全域	5月下旬に発生を確認した (やや早い) 5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	＋ ＋ ±
	黒とう病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	チャノキイロ アザミウマ	平年並	県全域	イヌマキにおける5月下旬の 発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数 は平年並	± ±
カキ	炭疽病	やや多い	県全域	前年秋の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	角斑落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	円星落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	少ない	県全域	5月下旬の発生量は少ない	－
果樹共通	カメムシ類	やや少ない	県全域	チャバネアオカメムシの越冬 成虫密度はやや少ない フェロモントラップ及び予察 灯における誘殺数は平年並	－ ±

・防除対策

〔ウンシュウミカン・そうか病〕

ジマンダイセン水和剤やストロビードライフフロアブルなどで防除しましょう。

〔ウンシュウミカン・ミカンハダニ〕

トモノールSなどで防除しましょう。なお、そうか病防除などで開花期以降にデランフロアブルを使用する場合は、マシン油乳剤との散布間隔を30日以上空けるようにしましょう。

〔ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ〕

コルト顆粒水和剤やコテツフロアブルなどで防除しましょう。

〔ブドウ・べと病〕

本日発表の「ブドウの病害情報第1号（ブドウべと病、ブドウ黒とう病）」を参照してください。

〔カキ・炭疽病〕

チオノックフロアブル、オーソサイド水和剤 80 などで防除しましょう。

・留意事項

東海地方は、5月29日頃に梅雨入りしたとみられます。今後、果樹の病害発生に好適な条件が続くと予想されますので、感染拡大を防ぐため防除に努めましょう。

ブドウ黒とう病の発病新梢率は平年並ですが、一部発生が目立つ地域が確認されています。本病は降雨が続くと多発するため、注意しましょう。詳細は本日発表の「ブドウの病害情報第1号（ブドウべと病、ブドウ黒とう病）」を参照してください。

ナシ黒星病の5月下旬における発生量は平年並ですが、5月下旬にまとまった降雨があったことから今後発病が広がる可能性があります。ほ場を確認し、発生状況に注意しましょう。

チャノキイロアザミウマの第2世代成虫（中山間部に位置する稲武は第1世代成虫）の発生ピークは、6月5日から6月13日で、前年より1日から4日早いと予測します。下表を参考に適期防除に努めましょう。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖		稲武
第2世代	6/10	6/11	6/5	6/6	6/10	6/11	6/8	6/9	6/13	6/9	第1世代	6/6
(前年)	6/14	6/14	6/8	6/10	6/13	6/15	6/12	6/12	6/17	6/13	(前年)	6/7
前年差	4日早	3日早	3日早	4日早	3日早	4日早	4日早	3日早	4日早	4日早	前年差	1日早
第3世代	7/3	7/4	6/28	6/29	7/3	7/3	7/1	7/2	7/6	7/2	第2世代	7/6

各地のアメダス平均気温から予測。6月1日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

前年の第2世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

野菜

・留意事項

ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類が発生している施設野菜ほ場では、栽培終了後に施設を密閉して、ウイルスの媒介虫を死滅させましょう。

キャベツ等の収穫残さはコナガの発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。

サツマイモ基腐病が全国的に発生しています。感染防止のため早期発見に努め、葉のしおれや黄化、株元の変色などが見つかった場合は発生株を適切に処分しましょう。詳しくは令和5年4月21日発表「サツマイモ基腐病情報第1号（サツマイモ）」を参照してください。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
		やや多い	山間部	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	+ ±

・防除対策

[キク(露地)・白さび病]

被害葉は伝染源となるので、できるだけ摘除しましょう。オペラフラワー乳剤やラリー乳剤、カナメフロアブルなど系統の異なる農薬でローテーション防除しましょう。

・留意事項

アザミウマ類、ハダニ類などの害虫は、気温が高く雨が少ないと増加しやすくなります。ほ場をよく観察し、発生を確認したら早めに防除しましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>)、予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台 6月1日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並の確率40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：30% 平年並：30% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%